



楽しかった小学生時代

副校長 下田 卓

梅雨の晴れ間にのぞく青空に夏らしさを感じる頃となりました。子供たちは、目標をもって楽しそうに水泳学習に取り組んでいます。私は、そんな子供たちの笑顔を見ながら自分が子供だった頃をなつかしく思い出します。

昭和30年代、ランドセルを背負い、私が小学校に通っていた頃は、日本の高度経済成長のベクトルが物凄い勢いで上がっていった時代でした。全市的にどこの小学校も飛躍的な児童増があり、急遽プレハブ教室が広い校庭（運動場）に次から次へと誕生していきました。1クラスに児童が50人位いたと思います。ついこの間までクラスの友達とドッジボールをしていたお気に入りの場所が、立ち入り禁止となって、遊び場所が転々と変わっていきました。

たいがいは、上級生が広い場所を占拠して、下級生は上級生に気を使いながらちんまりと遊んでいました。いったいどんな遊びをしていたのか、だれと遊んでいたのか、あまり細かく覚えていませんが、たぶんその程度の遊びだったのだらうと思います。でも、休み時間はわくわくするほど楽しかったです。

母校（＝中和田小）は1000人を越える児童がいました。羽を広げたワシの形をした木造校舎が自慢でした。教職員も50名はいたように思います。そんな時代なので、当時の給食調理員さん方も大量の給食を作るのに大変だったと思います。お腹をすかせた子供たちのために時間内に一生懸命作ったのだらうと想像できます。そういう、雰囲気だったので残すことなど罪悪のように感じられたものでした。脱脂粉乳とコッペパンと野菜スープのようなもの、時々とてつもなく硬い物がよく出されました。きっと、丈夫な歯になるために工夫しているのだらうと思っていました。鯨の竜田揚げというおかずでした。牛乳に似たあたたかい脱脂粉乳は、特に子供たちには人気がなく脱脂粉乳の入れ物を見ただけで泣いている女子もいました。嫌いなおかずが出たときには、給食当番にこっそり言って少なめにしてもらったり、目に涙をうかべて鼻をつまんで飲み込んだりしました。そのおかげで好き嫌がなく、何でも食べられるようになりました。そんなかいがあって全校朝会でクラスの健康優良児として表彰されたことを思い出します。

又、なぜか最後にはパンでおかずの皿を拭き取り、そのパンを食べたことを思い出します。もしかすると学校の給食調理場が改修工事中であったのかもしれませんが。ぴかぴかになったアルミの食器は毎日持って帰り、家で洗って翌日持って行きました。机に敷いたビニール製のふきんも印象に残っています。匂いをかぐと、ピーナッツクリームのような甘い匂いがしました。

今思い出すと、毎日一生懸命勉強したことや友達と元気に遊んだことより給食の思い出が多いのですが、多分そういう時代だったのでしょう。そして、今の子供たちにも、楽しい小学校時代を味わってほしいと願っています。